

映画、音楽の集い

講堂にて

※戦争展への協力金として1日500円いただきます

5月4日(日)

10:00~ **武器なき斗い**

山本薩男監督作品 1960年 141分
1919年、政府の治安維持法改悪にただ一人反対し、右翼の凶刃に倒れた労働党代議士、ヤマセンこと山本宣治の人間味溢れる生涯を描く。

5月5日(月)

10:00~ **台湾原住民族 生命之歌**

日本軍兵士として南洋に出征し命を落とした台湾原住民族兵士たち。その子孫たちが靖国神社から祖先たちの魂を取り戻そうとする。誇り高き歌声を持つ「飛魚雲豹音楽工団」による、2007年エルおおさか「プチエル」でのコンサート映像。(約45分)

11:00~ **私たちの公聴会 (吉元玉ハルモニを追悼して)**

制作:「慰安婦」問題解決オール連帯ネットワーク 2007年 32分
「この老いた身体で闘おう」と仲間を鼓舞し、2013年に亡くなられた中国の性暴力被害者・万愛花さんと、世界各地を駆けずり回って日本軍「慰安婦」問題の解決を訴え、今年2月16日に亡くなられた韓国の日本軍「慰安婦」被害者・吉元玉さんの貴重な証言。

11:45~ **平和コンサート 池辺幸恵(平和のピアニスト)**

池辺幸恵によるミニコンサート。池辺は2001.9.11から映像と音楽の平和コンサートをはじめた。広島県人なので被爆ピアノを皮切りに原爆・戦争・平和・人権をテーマの映像ライブを、日本から中国・仏・韓国・朝鮮・欧米で海外公演をしてきた。

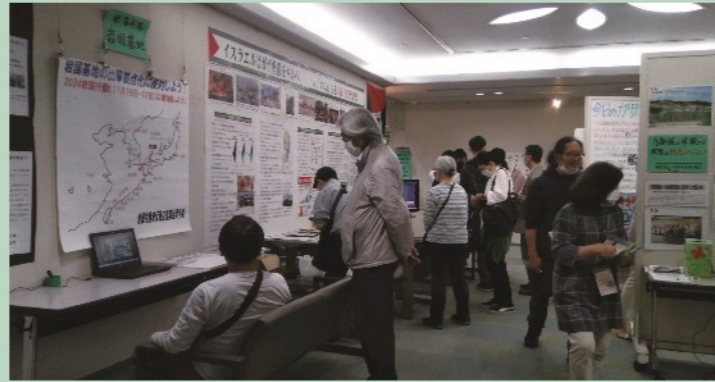
お話の集い

アトリエにて

5月4日(日) 13:00~

中川美由紀さんのお話《富山不二越訴訟の現場から》

富山不二越訴訟を原告とともに闘う中川美由紀さんが問う、戦後補償と戦争責任。



(写真は昨年の戦争展より)

「アジアから問われる日本の戦争」展2025 実行委員会

E-mail regain_peace@yahoo.co.jp Tel 080-5634-3553

展示内容や講演会・映画上映等の情報は順次フェイスブックに公開します。
フェイスブックのページはこちらのQRコードから ⇒



【構成団体】アジア民衆歴史センター/1%の底力で朝鮮学校の民族教育を支える会/岩国労働者反戦交流集会実行委員会/大阪城狛犬会/音楽と平和のつどい/韓国の原爆被害者を支援する市民の会/関西わだつみ会/京都・祝園ミサイル弾薬庫問題を考える住民ネットワーク/神戸・南京をむすぶ会/参戦日本兵の写真/書のサロンW.S./侵略と加害の教科書展示/設置理念に則ったピースおおさかを取り戻す会/戦争と看護を研究する会/戦争プロパガンダ研究会/治安維持法犠牲者国賠要求同盟堺支部/とめよう戦争！伊丹自衛隊・防衛省申し入れ行動/南京大虐殺60年大阪実行委員会/南西諸島への自衛隊配備に反対する大阪の会/日中友好協会大阪府連合会/日中友好協会堺支部/日中民間交流促進会/日本の近現代史を問う会/バナバ民族協会日本/爆発赤痢の謎を追う！関西研究会/反核・平和委員会/反戦国際兵士井田助男とともに/東アジア青少年歴史体験キャンプ実行委員会/撫順の奇蹟を受け継ぐ会関西支部/米軍Xバンドリーダー基地反対京都連絡会/平和と民主主義をめざす全国交歓会(ZENKO南大阪)/みんなピ(みんな考えよう「慰安婦」問題)/靖国合祀イヤですアジアネットワーク/リブ・イン・ピース☆9+25/琉球弧の軍事要塞化に反対する有志の会/領土問題研究会 ほか

市民の手で戦争展を 作りましょう！ 賛同金のお願い

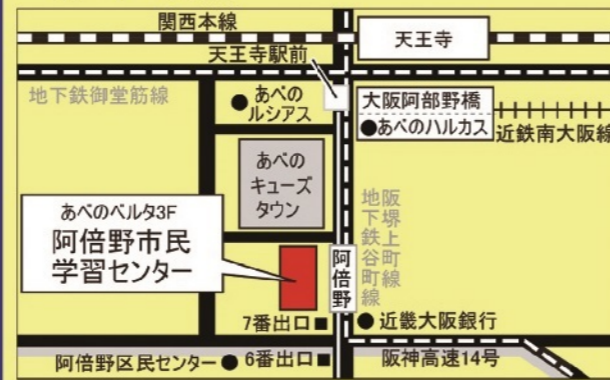
「アジアから問われる日本の戦争」展は、加害の展示を撤去したピースおおさかに危機感を覚えた市民の手によって、「市民の手で子どもたちに正しい戦争を伝えなければならぬ」とスタートしました。
財源もみなさまの賛同金のみです。

団体賛同1口 3000円
個人賛同1口 500円
振替口座：00940-1-237543
(ピースを取り戻す会)

※「戦争展賛同」とご明記ください
名前公表の可否を通信欄あるいはメールにてお知らせください

【会場アクセス】

地下鉄谷町線阿倍野駅下車7番出口より地下直結あべのベルタ3階



「アジアから問われる日本の戦争」展 2025

5月4日(日) 10時~17時

5月5日(月) 9時半~16時

阿倍野市民学習センター
入場無料 (地図裏面)



【メインイベント①】5月4日 14時から 講堂にて

DANNY JIN ライブ&トーク どいつもこいつも歴史から学ばず

【プロフィール】 ※資料代1000円
パレスチナと日本にルーツを持つラッパー。

2023年より活動を開始。イスラエルによるガザ侵攻をきっかけに、パレスチナに関する曲を多数発表。その革新的な活動は国内外の注目を集めている。

情勢報告:役重善洋 1990年代末よりパレスチナ連帯運動に関わっている。同志社大学人文科学研究所嘱託研究員。

【メインイベント②】5月5日 13時半から 講堂にて

※資料代 1000円

高井弘之 講演会 継続する大日本帝国と新たな戦争態勢 ~東アジアでの戦争を止めるために~

戦後80年の言葉があふれる日々。はたして1945年の敗戦で日本は生まれ変わったのでしょうか。戦争責任を問われることのないまま、いまだ戦争体制に突き進んでいます。高井さんは主張します。日本は80年で区切られてはいない。むしろ「日本150年」だと。アジアを支配するため、150年前に「日本人」は創られ、そして変わることなくも続いています。そのくびきを断ち切り、戦争を止めるために、私たちに何が必要なのか、ともに考えましょう。「戦争止めよう! 沖縄・西日本ネットワーク」共同代表、「ノーモア沖縄戦えひめの会」運営委員。著書に『日米の「対中国戦争態勢」とは何かー東アジアでの戦争を止めるためにー』『礼賛される「日本150年」とは、実は、何かー日本ナショナリズムの解体と新たな列島社会の形成に向けてー』等多数。

